

# 第230回 大阪小児科学会 WEB (LIVE) 配信

## ◇◇◇ プログラム ◇◇◇

### ■ Aセッション .....(14:00~14:36)

座長 村上城子 (和泉市立総合医療センター)

1. イソプロテレノール持続吸入療法で治療した喘息発作症例の検討  
堺市立総合医療センター 小児科  
高野良彦, 星野美麗, 藤田真祐子, 田中智彦, 藤原真須美, 入山 晶, 高柳恭子,  
遠藤友子, 井代 学, 川上展弘, 岡村隆行
2. 14歳男児の中殿筋膿瘍の1例  
和泉市立総合医療センター 小児科  
赤井結衣, 上角亮介, 山本なぎさ, 秦 直樹, 澤田 智, 村上城子, 坂東賢二
3. 脱力発作に対して迷走神経刺激療法が著効したLennox-Gastaut症候群の1例  
大阪大学大学院医学系研究科 小児科学<sup>1)</sup>, 大阪大学大学院 連合小児発達学研究所<sup>2)</sup>,  
大阪大学大学院医学系研究科 脳神経外科学<sup>3)</sup>,  
大阪大学医学部附属病院 てんかんセンター<sup>4)</sup>  
向井昌史<sup>1)4)</sup>, 青天目信<sup>1)4)</sup>, 小川勝洋<sup>1)4)</sup>, 谷河純平<sup>1)4)</sup>, 富永康仁<sup>1)2)4)</sup>,  
下野九理子<sup>1)2)4)</sup>, 押野 悟<sup>3)4)</sup>, 貴島晴彦<sup>3)4)</sup>, 大藪恵一<sup>1)</sup>

### 教育講演 .....(14:36~15:36)

座長 大藪恵一 (大阪大学大学院医学系研究科 小児科学教室)

専門医制度 更新基準 iii小児科領域講習(1点)対象講習 ※申請中

「小児がんにおけるゲノム医療の現状と展望」

滝田 順子 (京都大学大学院医学研究科 発達小児科学)

### ■ 休憩 .....(15:36~15:46)

### ■ 総会 .....(15:46~16:08)

議長・派遣報告座長 高松 勇 (たかまつこどもクリニック)

◆総会

◆派遣報告

「小児在宅医療に関する人材養成講習会(令和2年度厚生労働省委託事業在宅医療関連講師人材養成事業)」参加報告

大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学

鞍谷沙織, 濱崎考史

### ■ Bセッション .....(16:08~16:44)

座長 岸 勘太 (大阪医科薬科大学)

4. 診断に苦慮したリウマチ熱の1例  
大阪赤十字病院 小児科  
荻野 諒, 新居 敏, 楠本将人, 原田太郎, 安西香織, 肥田晋矢, 竹川麻衣,  
野村安隆, 藤野寿典, 葎井操雄, 住本真一

5. 胎児期より診断することができた総肺静脈還流異常症 (Ia) の1例

～コロナ禍におけるチーム医療を含めて～

大阪医科薬科大学 小児科<sup>1)</sup>, 大阪医科薬科大学 小児心臓血管外科<sup>2)</sup>,  
大阪医科薬科大学 産婦人科<sup>3)</sup>, 大阪医科薬科大学 麻酔科<sup>4)</sup>,  
大阪医科薬科大学 新生児科<sup>5)</sup>, 折野産婦人科<sup>6)</sup>  
水岡敦喜<sup>1)</sup>, 小田中豊<sup>1)</sup>, 岸 勘太<sup>1)</sup>, 尾崎智康<sup>1)</sup>, 蘆田温子<sup>1)</sup>, 鈴木昌代<sup>2)</sup>,  
小西隼人<sup>2)</sup>, 永易洋子<sup>3)</sup>, 澤田雅美<sup>3)</sup>, 藤田大輔<sup>3)</sup>, 倉橋直仁<sup>4)</sup>, 喜島丈巖<sup>5)</sup>,  
河村佑太郎<sup>5)</sup>, 根本慎太郎<sup>2)</sup>, 芦田 明<sup>1)</sup>, 折野一郎<sup>6)</sup>

6. 新型コロナウイルス関連小児多系統炎症性症候群の1例

大阪急性期・総合医療センター 小児科・新生児科  
馬場智朗, 丸山朋子, 桂木慎一, 前田恭兵, 宮崎 真, 根来彩子, 小川加奈,  
西浦博史, 白石 淳, 小垣滋豊

■ Cセッション .....(16 : 44~17 : 20)

座長 大 藪 恵 一 (大阪大学大学院医学系研究科 小児科学教室)

7. 本邦におけるCOVID-19迅速検査-抗原定性検査性能の検討

たかまつこどもクリニック  
高松 勇

8. 福島原発事故後に、低出生体重児が放射線1  $\mu\text{Sv/h}$  当たり約11%増加

医療問題研究会 はやし小児科  
林 敬次

9. 原発事故後に上昇を示した福島県小学生の学校保健統計「ぜんそく」被患率の検討

入江診療所  
入江紀夫

**第14回「低線量被ばくを考えるセミナー」**

日時：2021年6月26日(土)

大阪小児科学会 (TKP ガーデンシティ心斎橋南船場2階) 終了後開催

会場：学会終了後、同じ会場で引き続き開催。講演と質疑で約2時間を予定。

「福島甲状腺がん多発と放射線量との容量反応関係の分析」

大阪赤十字病院附属大手前整肢学園  
山本 英彦 先生

2011年3月の福島原発事故から本年3月で10年が経過します。2011年10月から始まった18歳以下の甲状腺スクリーニング検査も4巡目を迎え、2019年6月までに、少なくとも228名の穿刺細胞診で診断された甲状腺がんが報告されています。がん研究センターの評価でも有病率ベースで通常の数十倍の多発であることが確認されています。しかし、多発の原因については放射線被ばくなのか、スクリーニング検査や過剰診断による見かけ上の多発であるかの論議が続いています。

このような中で演者の山本先生は、福島原発事故当初から事故と健康障害の問題を一貫して研究されてきました。そして、2019年9月に医学雑誌Medicineに論文Association between the detection rate of thyroid cancer and the external radiation dose-rate after the nuclear power plant accidents in Fukushima, Japan「福島原発事故後の甲状腺がんの検出率と外部被ばく線量の関係」を発表され、甲状腺がんの検出率と外部実効線量率は明瞭な有意の容量反応関係を示すことを内外に明らかにされています。講演では、スクリーニング効果説や過剰診断説などがある中で、福島事故後の多発と放射線被ばくとの関係を分かりやすく解説いただきます。

なお、セミナー開催にあたり、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から十分な感染防止策を行ったうえでセミナーを実施したいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いたします。

主催：大阪小児科学会地域医療委員会